



あいち防災通信

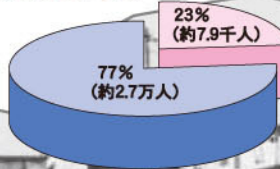
創刊号

●発行●
愛知県・あいち防災協働社会推進協議会

災害時に、地域の助け合いが大きな力になっていることをご存知ですか？

阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋などの下敷きになった人のうち、警察・消防・自衛隊に救助されたのは23%にとどまり、77%の人は近隣住民等によって助けられたという推計があります。

警察・消防・自衛隊による救助
近隣住民等による救助



大規模災害に備えるためには、地域全体での防災への取組が重要です。

8月末に日本列島を襲った記録的な豪雨は、愛知県内にも大きな被害を及ぼしました。この豪雨によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害を受けられました県民の皆様方に心からお見舞い申し上げます。

さて、毎年、全国各地で集中豪雨や台風などの風水害が発生しておりますが、地震による災害も忘れてはなりません。平成19年の能登半島地震と新潟県中越沖地震、そして今年に入ってから東北地方での地震による被害の深刻さは、皆様もご記憶に新しいことと思います。こうした災害の被災地におきましては、地域の人たちやボランティアの方々などが応急対策活動に一丸となって取組んでいただいております。改めて、地域の防災力が大きな力になることを感じさせられました。

また、この地域では、東海地震・東南海地震などの大規模地震の発生が危惧されております。愛知県では、第2次あいち地震対策アクションプランに基づき、総合的かつ計画的に地震防災対策に取組んでおりますが、そのような大規模な災害へ備えるためには、行政による対策だけではどうしても限界があり、地域全体での防災への取組が、非常に重要となります。

こうしたことから本県では、平成19年7月に、「あいち防災協働社会推進協議会」を設立し、行政・県民・事業者・自主防災会・ボランティア等で一体となって、災害に強い防災協働社会を実現するための県民運動を推進しています。

この取組の一つとして、防災情報誌「あいち防災通信」を刊行することになりました。この「あいち防災通信」は、地域の防災に関する取組を紹介するとともに、様々な防災お役立ち情報を掲載しております。皆様に少しでも防災に関心を持っていただき、地域の防災活動に参加するきっかけとしていただければ幸いです。

皆様一人ひとりが防災意識を高め、行動に移すことで、災害に強い愛知県を実現できますようご協力をお願いいたします。



あいち防災協働社会推進協議会会長
愛知県知事 神田真秋